

ハイライトシーン配信サービス

2008年3月更新

概要

私たちは、テレビのニュースなどを通して、スポーツ選手や著名人の活躍をハイライトシーンとして楽しんできましたが、インターネットのブロードバンド化によって、一般の人々のハイライトシーンも、家庭用ビデオカメラなどで撮影した映像を編集し、配信サーバにアップロードすることで、家族や仲間、時間や場所の制約を受けずに共有し楽しめるようになりました。

しかし、撮影、編集、アップロードには人手がかかり煩わしい作業を要求されます。そこで、スポーツ大会や娯楽施設で、人々の感動や思い出のシーンをハイライトシーンとして自動的に抽出し、即時にオンデマンド配信を可能とするハイライトシーン配信サービスを開発しました。

技術のポイント

このサービスは、撮影中の映像をパソコンや携帯電話で視聴できる形式に変換しながらハイライトシーンを自動的に抽出し、配信サーバにアップロードするので、オンデマンド配信の準備をリアルタイムに実行できます。

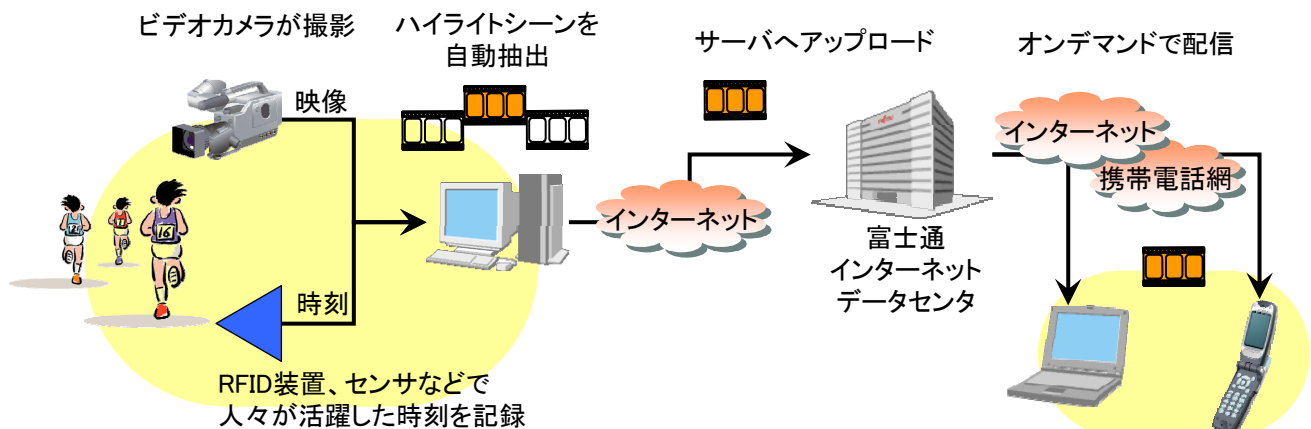
ハイライトシーンの始点と終点は、人々の活躍した時刻をRFID^(注1)装置やセンサーなどで自動的に取得して設定するので、多くの人々のハイライトシーンを連続して生成することが可能です。

注1 RFID:

Radio Frequency Identificationの略。識別情報を記録したICチップを内蔵したタグを電波や磁気により、無線で読み取り、タグを装着した人や物の識別を行うこと。

適用例

- 多数の市民ランナーが参加するマラソン大会において、完走したランナーのフィニッシュシーンを配信
例：青梅マラソン大会(2004年2月、2005年2月、青梅市)
- 多数の選手が参加する武道大会において全ての技ありシーンを配信
例：金鷲旗玉竜旗高校柔剣道大会(2002年7月、2003年7月、2004年7月、福岡市)
- 娯楽施設のアトラクションに参加した人々の活躍シーンを配信
例：Poke Park 2005内アトラクション「ポケモンわくわくサファリ」(2005年3月～9月、名古屋市)
- 議会における議員の発言シーンを動画議事録として配信
例：山口県議会(2004年4月～)



ハイライトシーン配信サービスの概要